

# 秀吉はなぜバテレン追放令を出したのだろうか



## ●高山右近の棄教拒否

日本は昔から多神教の国であり、異国の新しい宗教に対しては門戸が開かれていました。織田信長も豊臣秀吉もキリスト教を優遇し、信徒やキリシタン大名が増え、ヨーロッパとの南蛮貿易も盛んになりました。

ところが秀吉はザビエルの布教開始から40年もたない1587（天正15）年6月、突然、バテレン（神父）追放令を出します。このとき秀吉は九州制圧のため博多にいましたが、バテレンがキリシタン大名をそのかし、領民を強引に入信させ、神社や寺を壊していること、ポルトガルが日本人を奴隷として売り飛ばし、イエズス会がこれに関与していることを知りました。

激怒した秀吉は、陣営にいたキリシタン大名の高山右近に「キリスト教を捨てるか、領国から追放されるか」と迫りました。右近が「信仰を守る」と返答すると、秀吉は即座に右近の領地召し上げと追放を命じました。

## ●イエズス会宣教師への詰問

いっぽう、秀吉は、平戸（長崎県）から訪ねてきたイエズス会の日本準管区長ガスパール・コエリヨに対し4項目について詰問しました。

- ①なぜ領民を強引に改宗させるのか
- ②なぜ神社仏閣を破壊するのか
- ③なぜ家畜を殺してその肉を食うのか
- ④なぜポルトガル人は多くの日本人を奴隷として

■キリシタン大名の領地では、しばしば強制的な改宗や寺社の破壊が行われました。南島原では、仏像を山の洞窟に隠して守ろうとした人たちがいましたが、探し出されて壊されてしまいました。今では「穴観音」として知られています。

買って連れ帰るのか。

コエリヨは秀吉を納得させる答えを出せませんでした。怒りを増した秀吉は側近の大名たちの前で「バテレンの説く掟は悪魔のものだ」と厳しくキリスト教を批判し、「バテレン追放令」を布告しました。

しかし、秀吉は南蛮貿易をやめることができなかつたため、外国人バテレンの国外追放は実行できませんでした。コエリヨは司祭たちに、イエズス会員はそのまま日本にとどまり、各地に潜伏するように命じました。

## ●バテレン追放令から禁教へ

その後、1596（慶長元）年、土佐（高知県）沖で難破したスペイン船サン・フェリペ号の航海長が日本の奉行に対し次のように語ったといわれます。（サン・フェリペ号事件）

「われらはまず宣教師を送り込んで先住民を改宗させ、つづいて軍隊が入って多くの王国を征服してきた」これを聞いた秀吉はキリシタン取り締まりを強化しました。秀吉はキリシタンの問題が日本の防衛の問題であることを理解したのです。ただ、秀吉の政策では、一般領民の信仰の自由までは禁じていませんでした。

この後に成立した江戸幕府は、次々とキリスト教禁止令を出すこととなります。